

消防団長紹介



枚方市消防団 団長 上田 治央

枚方市は、大阪府の東北部に位置し、大阪と京都のちょうど中間に位置しています。昭和22年に市制が施行され、当時の人口は、4万人でした。昭和30年に津田町と合併して、現在の市域になりました。大阪万博が開催された昭和45年には、人口が20万人を超え、平成7年に40万人を超えました。平成26年には全国43番目となる中核市へ移行し、これまで大阪府が担っている事務（福祉・保健衛生・環境・街づくり等）を住民に身近な市で行うことが出来るようになりました。交通では市西部を京阪電車が京都、大阪を結び、市東部をJR片町線が東へは木津や関西文化学術研究都市の各地区へ、西へは京橋からは東西線に繋がり北新地、尼崎と結ばれています。また市内を通る幹線道路は市中心部を国道1号線（枚方バイパス）が通り、市東部を平成22年3月に第二京阪道路が全線開通しています。枚方の地名は古く、日本最古級の文献である古事記、日本書紀、風土記などに登場しています。かつては東海道品川宿から数えて56番目の宿場町として栄えた歴史があり、その街並みの風情を活かし毎月第2日曜日に枚方宿五六市として約250店のお店が並び賑わってます。その他には七夕伝説やひらかたパーク、5つの大学、バレーボールVリーグパナソニックパナソニックの本拠地があります。

枚方市消防団の歴史は昭和22年9月に7分団、定員400名をもって発足しました。昭和30年には枚方市と津田町との合併により条例定数560名に改正されました。平成21年7月には組織機構を改革し4方面隊制を導入しました。平成24年4月には、5方面隊制となり、同年、女性分団を創設しました。現在、1本部、5方面隊、11分団、条例定数500名で構成され、消防車両45台を有し、常備消防と連携して地域における消防・防災の中核として重要な役割を担っています。平成30年の更新車両から、軽車両では乗組員の安全のため、デッキバン型を配備。また、ガンタイプノズル等を配備し、消防組合と連携強化を図っています。活動状況は、分団定期訓練、非常時参集訓練、山林火災防ぎょ訓練等の訓練に加えて小学校校区ごとの自主防災訓練指導や年末火災予防特別警戒を実施しています。令和2年及び令和3年に大阪府に発令された新型コロナウイルス感染拡大防止のための緊急事態宣言期間中にあつては、感染拡大防止のため消防団車両による市民への広報活動を展開しました。

私は、昭和56年11月に入団、平成24年4月からは副団長を就任し、令和2年4月からは団長に任命されました。また、平成26年3月に消防庁長官表彰、平成28年

4月には藍綬褒章を受章しました。

消防団活動で記憶に残っている出来事は、平成17年10月26日午後10時10分頃、枚方市池之宮4丁目の産業廃棄物収集会社の工場内で起った爆発事故は、工場内にあった廃油等に燃え移り、大小の爆発を繰り返しながら周辺の工場へと延焼を拡大していきました。最初の爆発で工場の屋根と壁が吹き飛び、かなり離れた場所でも爆風による被害が発生しました。出動命令を受けた私はすぐさま現場に駆けつけ、隣接工場の従業員等の避難誘導を行うとともに、消防隊の消火活動の支援を行いました。また、消火活動が円滑に進むよう他の団員とともに交通整理等を行いました。消火活動は10数時間に及びましたが、我が消防団員の士気は高く不眠不休の活動を展開することができました。

『安全第一・規律と融和と心意気』 この言葉を全ての消防団員と共有して、団結力をもって枚方市消防団の活動をさらに充実、強化し、枚方市の安全・安心に貢献する所存です。